

令和 3 年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、①新聞に親しみ、言葉の力を伸ばす（学習活動）、②保護者が充実感もてるPTA活動の推進（その他）の2項目を掲げた。

重点目標の評価については、別添「8 学校アクションプラン」に記載のとおり、達成度及び取組状況から、当初の目標をおおむね達成することができたと考えている。

学校評議員からは、「①よい活動なので、今後も継続していけばよい。」「②アンケートで把握したニーズを企画に生かして工夫して実践している点が良い。」「②コロナ禍の中では、少数であることが活動実施を可能にするメリットとも考えられる。」と、今後の学校経営に向けての示唆をいただいた。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度取り組んだ重点課題について、学校評議員の意見を基に、次年度への課題と方策を次のようにした。

- ①本取組を継続するとともに、生徒の変容の把握や、生徒へのフィードバックや支援をどのように行うかを検討する。
- ②次年度も生徒数減少によるPTA会員数の減少が予想されるため、一層会員全員で運営に取り組む体制作りを工夫する。

8 学校アクションプラン

令和3年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動 一中・高等部一
重点課題	新聞に親しみ、言葉の力を伸ばす
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒は、普段から他の人の意見を聞く機会が少なく、自分の意見を伝える場面も限られている。 ・日常生活では、新聞を読む習慣が身に付いていないため、社会の出来事に関心をもつことが難しかったり、自分なりの解釈による勘違いがあったりする。
達成目標	新聞記事発表会の実施回数 年3回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、生徒の実態や興味・関心を元に社会情勢が分かる新聞記事を選び、「今週の出来事」として廊下掲示し、関連した課題プリントに生徒が取り組むことで、社会の出来事に関心をもつ機会を設ける。 ・課題プリントを利用して、新聞記事のまとめや感想を言う、関連した言葉探しをする、などのクラス活動を月に1回程度設定する。 ・学期に1回、生徒が選んだ新聞記事発表会を実施する。
達成度	新聞記事発表会の実施回数 2回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・首相の交替などの硬いニュースから、旬な食べ物などの身近な話題まで、多方面の記事を掲示することで、新聞記事掲示コーナーへの生徒の興味関心を集めることができた。 ・生徒は課題プリントに記入したり、クラスで記事について話し合ったりすることで、興味関心を確実な知識にすることができた。 ・1回目の新聞記事発表会を学習発表会のステージ発表とし、保護者や他学部の幼児児童、教職員の前で発表を行った。発表者は自分の意見を人前で発表することで自信に繋がり、他の生徒の発表を聞く場面では、他者の意見や考えを傾聴し理解する力を向上させることができた。
評価	B (実施回数は2回であったが、社会の出来事への関心や、自分の意見を伝える力を高めるなど、目指していたことをほぼ達成することができた。)
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の子の小学校でも当番制で新聞記事の発表に取り組んでいる。本校の取組は今後も継続していけばよい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本取組における生徒の変容をどのように把握するのか、評価の項目や規準などの設定、検討が必要である。 ・生徒の変容、評価をもとに生徒へのフィードバック、支援をどの場面でどのように行うのかや、各教科やクラスでの活動との連携についての検討が必要である。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和3年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 2 -

重点項目	その他 ー進路指導・総務部ー
重点課題	保護者が充実感のもてるPTA活動の推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒数の減少に伴い、PTA活動に参加する保護者が少なくなっている。 ・コロナ禍のため、PTA活動が設定しにくく、保護者の研修の場や交流の機会が減ってきている。令和2年度は、PTA親子活動を1回のみ実施した。 ・本校は、幼稚部から高等部まで幅広い年齢層が在籍している上に、高等部には、軽度知的障害を有する生徒が在籍しており、保護者のニーズが多様である。
達成目標	<p>保護者のニーズに応じたPTA活動（親子活動等）の実施回数</p> <p>年2回</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が参加しやすいように、学習参観日に合わせてPTA活動を実施する。 ・親子活動等について、他の分掌や各学部主任と連携し、幼児児童生徒の実態に即した内容を企画する。また、保護者にPTA活動の内容について、アンケート調査を行い、企画に生かす。
達成度	PTA活動（親子活動等）の実施回数 2回
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・11月27日（土）学習参観日において、学部ごとにPTA親子活動を実施した。事前のアンケート調査により、幼稚部：陶芸活動、小学部：運動教室、中・高等部：ニュースポーツ（ボッチャ・フライングディスク）体験を実施し、幼児児童生徒とその家族35名、教職員が参加した。どの活動も好評で、親睦を深めるよい機会となった。事後アンケートでも好評であり、継続が好ましい。 ・1月20日（木）PTA進路研修会 1部「先輩に学ぶ」：卒業生及び受け入れ企業担当者を講師に招き、中・高等部生徒と保護者が将来について考える一助となった。2部「年金セミナー」：保護者・教員が障害者基礎年金について学んだ。
評価	A
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで把握したニーズを企画に生かし、活動内容や運営を工夫して実践している点が良い。 ・コロナ禍の中では、少数であることが活動実施を可能にするメリットとも考えられる。
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も生徒数減少に伴う会員数の減少が予想されるため、一層会員全員で運営に取り組む体制作りの工夫が必要である。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）